

今こそ 区民が主人公の区政に変えよう！ 区民要求実現練馬集会を開催！

11月30日（火）練馬文化センター小ホールにて区民要求実現練馬集会を開催しました。この集会は主に練馬労連、東京土建、練馬区労協、練馬区職労をはじめ、区内の様々な市民団体が実行委員になり、開催しているものです。

参加は労働組合、区内の諸団体、チラシを見て来場された方など合計で203人でした。

楠井区労協議長の開会あいさつ、佐藤事務局長（東京土建）による練馬区への要望書と回答の報告に続き、安達智則さん（都留文科大学講師、東京自治問題研究所主任研究員）による「どう変わるか日本の政治、どう変えるか練馬区政」というテーマでの講演が行われました。

経済安全保障 その中身は

一つの会社に5000億円もの投資？

日本の政治については、菅政権の退陣により誕生した岸田政権による「経済安全保障」について触れ、日本政府が主導する半導体事業で、誘致した台湾の企業一社に、これまでに税金を約3,500億円もつぎ込み、今後さらに増え総額5,000億円に達する見込みであること。

練馬区の一年間の財政規模は約5,000億円であり、人口70万人を超える練馬区の、予算一年分に相当する多額の税金を簡単にポンと一つの会社に差し出すことに



講師 安達 智則さん

疑問を呈しました。

また、これは総理大臣に就任してわずか3ヶ月ほどしか経過していない岸田首相がすすめた施策であるとして、これまでのアベ、スガ政治による税金の使い方と同じく、今度は、経済安全保障の名を借りてお金を湯水のように使うことに、懸念を示したものです。



コロナ禍でも税収は過去最大を記録

お金のない人も負担の消費税も過去最大に

さらには、コロナ禍の中 2020 年度の国税決算で、税収は過去最高の税収を記録し、60兆円を超えたが、その34%は、消費税が占めていることも報告されました。消費税は、弱者の負担が大きいと言われていくことから、税収の中身についても注視していく必要があります。

練馬区は貯金が過去最大なのに

「財政危機」の一点張り！

練馬区政については、区長や、区の広報は「練馬区は財政危機で大変だ」という主張をしているが本当か？ということについてお話をされました。

安達先生の調べでは、練馬区の借金（地方債）は、1995年の約1400億円をピークに減少傾向であり、2019年は約490億円であること。それに対し区の積み立て額は、2019年は約941億円、2020年はさらに50億円増加し、コロナ禍の中でも貯金が増えているため、区長が財政危機と言っているが、それは間違いだと指摘しました。（表1，表2参照）

表1 練馬区の借金（地方債）の
現在高推移

1995年	1399.3億円
2000年	1281.8億円
2005年	958.5億円
2010年	563.7億円
2015年	446.9億円
2019年	487.1億円

表2 練馬区の積立金（貯金）の
現在高推移

1995年	171.7億円
2000年	358.2億円
2005年	215.1億円
2010年	532.3億円
2015年	608.3億円
2019年	941.2億円



区民のささやかな願いも

「財政危機」で一蹴の前川区政

区民要求実現練馬実行委員会が、練馬区に対し、いきいき健康券の年齢引き上げ撤回、一人暮らし高齢者の入浴券の復活を要望したことに触れ、その返答に新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい財政状況のもと、として、それぞれ要望を拒否しているが、区の説明は事実ではない、と断言しました。



戦後最大の社会危機は

区民サービスの切り捨てからの転換を

また、谷原保育園の民営化について、地域で不安の声が広がっている事、民営化を進めるだけでは地域経済の維持発展には寄与できないことを説明。

コロナ禍で、経済が大変、多くの中小企業が大変な状況になったり、学校もリモートになったりなど、戦後最大の社会危機を迎えた事は事実だが、それと財政はイコールではない。民営化や区民サービスの切り捨てをすすめる練馬区の姿勢は大いに問題、と述べました。

コロナショックに直面の社会危機について 国と自治体がすべき4つのポイント

講演の締めくくりに、「コロナショックに直面している社会危機について国と自治体は何をすべきか」という観点で4点、お話をされました。

第一に政治を変える必要性

総選挙で改憲勢力が3分の2の議席を獲得した中、市民と野党の共闘を良識的な保守層とも一緒に、輪を大きく広げて改憲を阻止する、その取り組みを全国に広げ来年の参院選で勝利し、政権交代の展望を持つ。

第二に、地域経済を変える

練馬区の「公共施設等総合管理計画」にストップをかける。今存在する公共施設を大事に長く使う方向性を持つべき。また、



非正規雇用者の 7 割が労働保険未加入の状況であることから、区が先んじて救済し、安心して生活と仕事ができるように区として取り組むべき。

第三に、財政を変える

国も区も財政危機ではない。区民にきちんと現実を正直に伝えること。また、練馬区は、貯金を積み上げている場合ではなく、戦後最大の社会危機なのだから、この時に使わずにいつ使うのか、しっかり正していくこと。

第四、区長を代える

人間愛、地域愛のある人に区長になってもらう。国の言いなりになって民营化を進めることなく、自治体の力で地域経済を発展させていく考えをもってもらう。

区内の自衛隊の基地を撤去し、平和そのものの練馬区にしていく。来年 4 月の練馬区長選挙で、首長九条の会の 4 人目の方が誕生すると、とてもうれしい。自治体は国の出先機関ではない。自治体自らの創意工夫で歩いていく、それが地方自治そのものだ。と話され大きな拍手の中、講演を終えました。

区民の皆さんと共により良い練馬区に 区内諸団体からの活動報告

練馬区教職員組合 岸田さん



小学校で 35 人学級制度が始まったが、2 年生から実施とのことで、現在 3 年生～6 年生は従来のまま。クラスの数人が減れば、子どもたちに

より目が行き届きやすくなる。教員の数も増えるので期待したい。教員には残業代が出ないため、勤務時間以降、仕事が沢山残っているのに、その分は自主的に残ってこなししているとみなされ「働かせ放題」の状態となっている。

それに加えて、国が、タブレットを使っでの教育を推進したため、子どもたちにはタブレットが配られたが、なぜか教員には配られていないため、使い方を教えるのも困難。コロナ禍の中、子どもたちも窮屈な状態。少しでものびのびと教育を受けられるためには、少人数学級をもっと推し進める必要がある。



新日本婦人の会練馬支部 栗原さん



コロナ蔓延で、会議やサークル活動などが約 2 年近くできなかった。工夫しながら会議や学習会はオンラインを活用、現在、小規模の集まりは徹底した感染予防対策を講じている。オリンピック、パラリンピックに子供を観戦動員をやめさせるとりくみでは、練馬区では、区と教育委員会と懇談の席を持った。生理の貧困問題では、いち早くとりくみ、児童・生徒への生理用品の無料配布について区長へ申し入れを行った。弱い人を助けるのは行政の仕事であり、この状況は正常ではない。政治が貧困をつくりだしている。この状況を変えるため今後も練馬で、元気に活動していく。

練馬生活と健康を守る会 代田さん



2019 年 5 月に補聴器購入の助成について区議会に陳情書を出した。都議会では、戸谷都議、区議会では日本共産党区議団が、補聴器助成の必要性を訴えた。その結果陳情が採択され今年の





7月から実施が始まり、私たちにとって大きな成果となった。しかし、助成は、住民税非課税や生活保護の世帯しか受けられない。助成額は25,000円。実際に購入するとなると、差額の負担が大きい。利用したくても出来ない人が多いのが現状。

紙おむつ支給の制度が、4月から改悪され、住民税非課税の方しか利用できなくなった。これまで、本人も家族にも大変喜ばれていた制度。コロナ過で反対運動ができないまま区議会で制度改悪が決まってしまった。皆さんと一緒に撤回の運動をすすめていきたい。



練馬区社会保障推進協議会 矢部さん



新自由主義が進行するなか、自己責任を追求する自公政権のもとで、区民の貧困、孤立、孤独死が増えている。

2018年は、569人が孤独死、そのうち3人が、一年以上経過してから発見されている。人の尊厳にかかわる問題だとして、区に対応を迫ったが、区側は、区として対応する必要性を感じていないと、こちらが思うような回答であった。

練馬区は生活保護受給者が東京23区の中で4番目に多いが、全く所得のない独居の高齢者2万2千人の中で、生活保護受給者は一割のみと推定、約2万人が極めて貧しい暮らしを余儀なくされている。

独居で低所得では、心身の老化、能力低下が著しく多い。高齢者に対する見守りについて昨年の区民要求で質問したところ、地域包括支援センターが、対応しているとの回答だったが、実際は、3年に一度しか訪問していなかった。極めて深刻な問題と捉え、区に対し改めて対応を求めていく。

練馬区職員労働組合 保育園分会 小堀さん



今年の11月22日、区の財政価格審議会場で、突然谷原保育園の廃園が公表された。理由は、谷原保育園の近くの土地を区が買い取り、そこに民間の保育園をつくるからとの事。保護者も職員もびっくりして、動揺が広がっている。

議会を通さず重大な計画が進むのは、行政の独裁化ではないか。保育園は、私立も公立も両方大事。私立の場合、経営状況が悪いということで突然閉園というひどい事態もある。そういうことが無いようにしてもらいたいし、谷原保育園は絶対つぶすな、ということで取りくみを行っていきたい。

閉会あいさつ 練馬労連議長 金田さん



この間の私たちの要求に対する区の回答のクラクリが分かったような気がしました。私も教員として、区に対し様々な要求をしているが、区の回答はいつも予算状況が厳しい、という対応でした。しかし、練馬区の言っていることは間違っているということが分かりました。

来年の区長選挙では、練馬愛のある人、子ども、区民を大切に選ぶ人を選んでいきたい。現区長に代わる新しい区長を私たちの手で誕生させたいと思いました。

実行委員会より…講演・各団体の報告は、大変良く、検温・消毒等も行き届き、安心して参加できた、という感想が多く寄せられました。この集会の成功を力に、来年の運動、区長選などに活かしていきましょう。

練馬労連事務局よりおしらせ…1月の新春の集いは中止と致します。
また、12月29～1月4日は労連事務所を閉めさせていただきます。
皆様、良いお年をお迎えください。

